通巻131号

山王

戌歳新春号

表紙の絵
当社蔵「山王祭礼之図」より
御捻りの賽銭を拾う白丁

新春を迎えて

日枝神社氏子崇敬会長　小池　百合子

皇紀二千六百七十八年、平成三十年の新年を迎え、皇室の弥栄と国運の隆昌を言祝ぎ謹んでお慶びを申し上げますとともに、日枝大神様の更なるご加護が皆様の上に蒙り奉られ、今年が良き年でありますようご祈念申し上げます。

さて、日枝神社の氏子崇敬会第七代会長を拝命してから、早くも一年が経とうとしております。由緒ある日枝神社氏子崇敬会の会長という重責に身が引き締まる一年でございました。今年も重責を果たすべく努めてまいりますので、皆様からのお力添えをいただけますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、いよいよ来る二千二十年は東京オリンピックです。今回の五輪招致の際に掲げた「復興五輪」。世界中の皆様から頂いたご恩への感謝の心を示し、力強く立ち上がった被災地をお見せすることに大きな意味があると考え、取り組んでおります。

「被災地の復興なくして、大会の成功なし」をスローガンに、被災地でのリオ大会でのライブサイト開催や聖火リレー、被災地を先駆けにしたフラッグツアー等を実施しております。CO_2フリー水素の活用に向けた連携も震災復興への後押しを担っております。東京都では、二千十六年五月に福島県と産業技術総合研究所、環境科学研究所等と協定を締結し、CO_2フリー水素の研究開発を促進しており、二千十七年の三月からは燃料電池バスが都内で走り出しております。二千二十年には都民の足としてはもちろん、国内外から東京に訪れた皆様に、水素エネルギーを活用している、環境先進都市として、先進性、安定した社会を世界にアピールするショーケースの役割も果たします。誰もが納得できる大会にすべく、引き続き課題解決に全力で取り組んで参る所存です。

本年は戌年ですが、相場格言では「戌笑い」と言われております。昨年は酉年、「一鶏鳴けば万鶏歌う」ということわざ通り、まことに賑やかな年と相成りました。国内外ともに、まことに激動の年でございました。

一方、戌年は微笑み相場、騒いだ酉から飛躍を期す年にすべく、東京も数々の具体策を実施してまいります。格言通り、皆様の笑みにあふれる一年にしてゆく所存です。

最後に、この新しい年の国家の安寧と弥栄、日枝神社のご神徳の昂揚とご社頭のご隆昌、氏子崇敬会の更なるご発展、また皆様のご健勝とご多幸を心から切にご祈念いたしまして、私の新年にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。

新春祭典・行事のご案内

一月　一日（月）
午前零時　若水祭
神能「ひとり翁」奉奏
山階彌右衛門師　奉仕
午前七時　歳旦祭

一月　三日（水）
午前十時　元始祭

一月　六日（土）
午後二時　奉納書初展奉告祭
午後三時　山王奉書会（参集殿）
記念講演
講　師　バルセロナオリンピック金メダリスト
柔道家　古賀稔彦 先生

一月十三日（土）
午前十一時　印章護持祭

一月十五日（月）
午前九時　月次祭
午前十時三十分　神符焼納祭

一月二十日（土）～二十一日（日）
神宮初詣旅行会

一月二十五日（木）
午後六時　新年互礼会

二月　三日（土）
午前十一時三十分
節分祭追儺神事

特別寄稿

参議院議員　山谷えり子

皇紀二千六百七十八年、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

新年を迎えるにあたり、天下泰平、国土安穏、聖寿無窮、万民豊楽を祈念いたします。

戊戌（つちのえいぬ）の本年は、変化を迎える年といわれています。

昭和三十三年、当時では世界一の高さを誇る東京タワーが完成したのも六十年前の戊戌で、ラジオからテレビの時代へと変化した年でした。当時の山王からは、東京タワーが見事に望めたことでしょう。また、同年には皇太子殿下と美智子様のご婚約が発表されましたが、民間から皇室に入内される初めての出来事でした。

戊戌は、大きなブームが到来する年でもあります。

昨年の十月一日、宮西惟道名誉宮司さまとのお別れから三か月が過ぎました。

十数年来、私が毎朝国会へむかう前にお宮にまいりますと、境内で参拝者や職員の皆さんと親しく談笑される名誉宮司に頻繁に御目にかかりました。私の姿に気付くと、心の内を一瞬で悟られるかのように優しく、時には厳しく、数多の歴史を見守られてきた〝城内鎮守の杜〟日枝神社の宮司として、わが国が進むべき方向、また政治家として為すべき道を照らしてくださいました。

これからも宮西名誉宮司の背中を仰ぎつつ、「世界から尊敬される道義国家、世界に貢献できる国家の確立」にむけ、国づくりに邁進してまいる所存です。

私は、参議院の北朝鮮による拉致問題特別委員長と自民党の拉致対策本部長を拝命しております。

北朝鮮に拉致された横田めぐみさんが拉致されてから四十年となった昨年十一月、米国のトランプ大統領が来日し、横田早紀江さんをはじめ被害者御家族十七人と面会しました。ご家族と膝詰めで面談した大統領は、「拉致された被害者が愛する人々の元に戻れるよう安倍晋三首相と力を合わせていきたい」と述べられました。

これに先立ち、私は九月に家族会・救う会・拉致議連で訪米し、ホワイトハウス、国務省、国防総省や国会議員らと面会し、早期解決にむけた協力を求めました。その中でも、ホワイトハウスでのマット・ポッティンジャーNSC（国家安全保障会議）アジア上級部長との面談は、大変意義深いものでした。めぐみさんの弟の拓也さんが家族写真を示しながら「北朝鮮への圧力強化が解決への道」と訴えに対し、9・11の同時多発テロ後、海兵隊に入隊しアフガニスタンで活動した経験もあるポッティンジャー氏は「海兵隊には、仲間を一人たりとも戦場に置き去りにしないという精神がある。皆さんの活動も同じ精神が感じられ、嬉しく思う。トランプ大統領にも必ず伝えます」と語りました。

直後の国連総会で拉致被害者救出のシンボルカラーであるブルーのネクタイをしたトランプ大統領の演説では、"We know it kidnapped a sweet 13-year-old Japanese girl from a beach in her own country,（かわいい十三歳の日本の少女が日本の海岸で拉致された）"と拉致問題に言及しました。

そして、今回の大統領の訪日は、日米関係の強固な絆を世界に発信する絶好の機会となりました。

ゴルフ外交は世界から注目され、テーブル上の形式ばった議論だけでなく、多くの時間をかけて世界の様々な課題について深い議論が行われました。

拉致問題についても「シンゾー、これは必ず一緒にやろう」と解決にむけた前向きな発言され、家族会との面談では、「皆さんは強いリーダーを持っている」と大統領が述べられました。

世界情勢が緊迫している昨今、各国のリーダーが次々に交代していく中において、わが国は安定した政権で国民生活が守られていると感じます。

国民を守りぬく強い覚悟と責任感、そして実行力を兼ね備えたリーダーの下、引き続き謙虚に全力を尽くして政策推進をすすめてまいりたいと思います。

〝リセット〟や〝チェンジ〟を問うのではなく、自分自身が成長へむけた〝変化〟を遂げていけるような一年となりますよう切に願っております。

結びに国家の安寧と皆様のご多幸を心より祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

山王祭 異聞

—日本三大祭—

江戸祭禮研究
山瀬一男

東京奠都百五十年

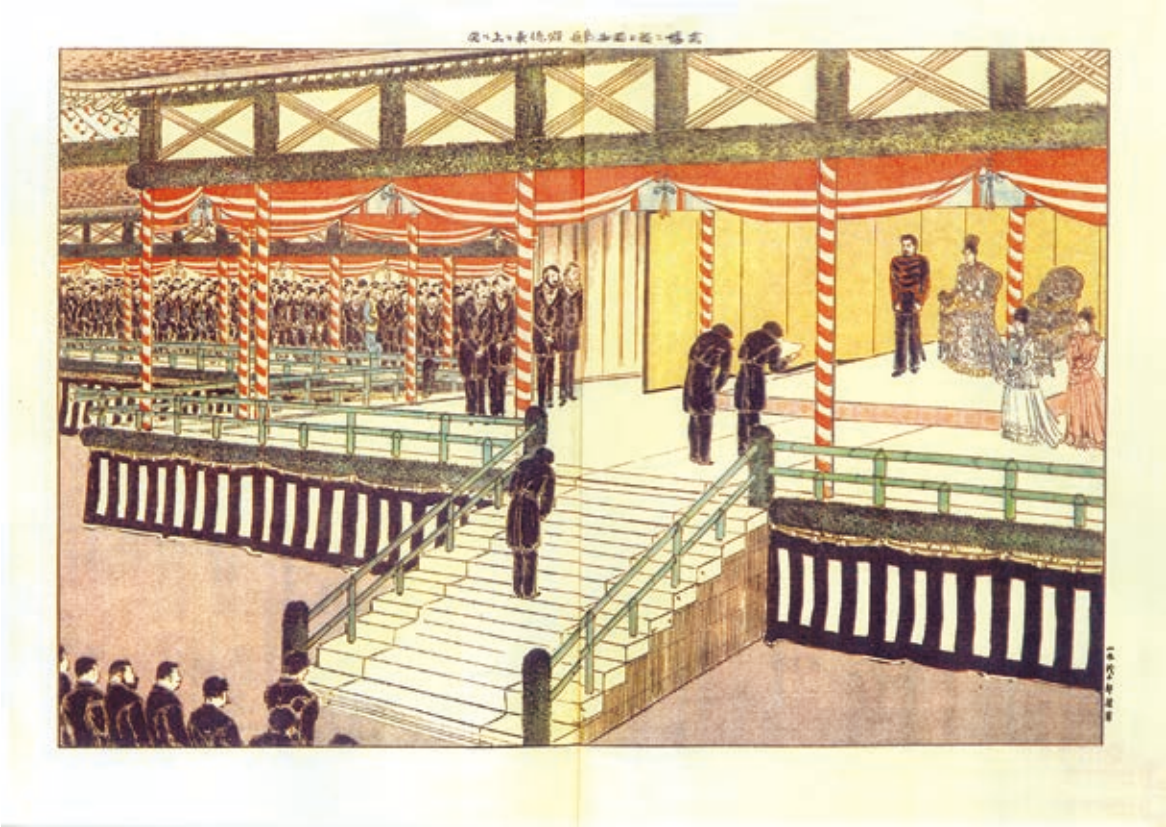
二百六十余の長きに渡って続いた江戸時代も慶応三年（一八六七）の大政奉還・王政復古と、慶応四年（一八六八）一月からの戊辰戦争を経て、同年九月に元号が明治と改まり、新時代を迎えました。改元に先立って、旧暦慶応四年七月十七日（一八六八年九月三日）、明治天皇は「江戸ヲ称シテ東京ト為スノ詔書」を発し、江戸の総称を東京として、ここで新政府の政務を執ることを決定しました。

明治天皇は、明治元年十月十三日に初めて東京へ東幸し、江戸城はその日のうちに東幸の皇居と定められ東京城と改称されました。明治天皇は、東京市中の一五九二町に、酒樽と瓶子をお配りになり、市中では「天拝頂戴」の奉祝が行われました。翌明治二年（一八六九）三月、再度の東幸をされた明治天皇は、ここに滞在するために東京城を『皇城』と称るとされ、政務をお執りになられました。

それまでの都を廃都し、天皇陛下の住まいごと都を遷すのが『遷都』ですが、お住まいを京都（京都御所）に残しながら、政治経済の都を遷す『奠都』が為されました。（因みに、明治天皇・大正天皇・昭和天皇の即位の礼は京都で行われ、今上天皇の即位の礼は初めて東京で行われました。）こうしてみますと、本年（二〇一八）は、東京奠都百五十年の節目となる年なのです。

東京奠都三十年祭

東京に奠都してから三十年の節目となる明治三十一年（一八九八）四月十日、「東京奠都三十年祭」が行われました。二月四日に祝賀会が発起され、三月八日に発起人会会長として子爵岡部長職氏、副会長には渋澤榮一氏が就任しました。祝賀会の



明治天皇皇后陛下御臨席

奠都三十年祭市民奉賀之圖

主会場は皇居前広場の二重橋前で、第二会場は上野公園。主会場には天皇皇后両陛下が御臨席になりました。

主会場の皇居前広場では多くの山車が曳かれ、余興として「大名行列」「奥女中行列」「武士行列」「昔話踊り」「長唄演舞」等、様々な出し物があり、さながら往年の天下祭を彷彿させるものであったようです。

第二会場の上野不忍池では、花火が打ち上げられ、主会場に入れなかった群衆が詰めかけ大盛況となりました。市内各区の町々には国旗が掲げられ、家々には軒提灯が飾られ、ことに日本橋区、京橋区、神田区、麹町区では、山車・屋台も出されました。日本橋の南北には、安芸の宮島を模した奉迎の鳥居が建てられ、欄干も神社の玉垣に見立てて作られるなど、壮観な姿は衆目を集めました。東京市中は、それぞれ工夫を懲らした催しをしたようで、さながら東京全体が奉祝会場であるかのように大いに賑わい、東京外からも数十万人が押しかけ大盛況となったわけです。

東京奠都五十年祭

大正八年（一九一九）五月、東宮殿下（昭和天皇）の御成年式と併せて、東京奠都五十年祭が行われ、日本橋・神田周辺では奉祝として、江戸山車が小屋掛けで展示されました。このように東京は、節目節目で東京奠都の周年を祝ったのですが、その後の東京は、大正十二年（一九二三）九月一日に関東大震災に見舞われ、更に昭和二十年（一九四五）三月十日には、東京大空襲という戦禍で都心部は壊滅してしまったのです。ゆえに奠都周年奉祝が、その後為されることはありませんでした。

昭和四十三年（一九六八）、東京奠都百年にあたる年、明治百年として全国的にお祝い事が催されていましたが、東京は奠都百年の行事は行われませんでした。東京奠都の意味合いが忘れ去られてしまったかのようです。

本年は、日本の首都〝東京〟にとって奠都百五十年の節目となる重要な年です。皇城の鎮めたる日枝神社は、東京の鎮めでもあるはずです。現在東京は、二〇二〇年に東京オリンピックを控え、着々と準備が進められていますが、東京にとって今年こそ歴史的に重要な節目の年であることを認識し、本年の山王祭は産子各町が盛大に「東京奠都百五十年」の奉祝と併せ、齋行して頂きたいと望んでやみません。

日本橋住人記す

市内有志者の行列扮装の図

当日午後日本橋の実況

謹みて新年の
御祝詞を申し上げます

頌春

平成三十戊戌歳

日枝神社

代表役員 宮司 宮西修治
責任役員 細田安兵衛
同 中澤彦七
同 福原義春
同 大澤忠政
同 泉 邦夫
同 澤田晴子
同 髙木 茂
責任役員 権宮司 大塚正行

謹賀新年

順不同敬称略

(株)ぬ利彦 代表取締役社長 中澤彦七 3口

マネックス証券(株) 松本大 3口

(財)答礼会 会長 長田近衛 理事長 山田麻喜子 3口

山王熱供給(株) 代表取締役社長 津曲荒太 2口

永田町・霞ヶ関 平河町

山王むらさき会 会長 清水威人

山の茶屋 遠藤恒夫

永田町 天竹 荻原秀夫

(株)植むらフーズ 代表取締役 十文字弘美

(株)ザ・キャピトルホテル東急 総支配人 末吉孝弘

(株)アルファビデオ 代表取締役 青山裕生

日枝神社四葉会

(株)食文化総研 レストラン黒澤グループ 代表取締役 齋藤總子

麹町・紀尾井町

(株)泉屋東京店 代表取締役社長 泉邦夫

(株)ニュー・オータニ 代表取締役社長 大谷和彦

麹町ビルディング(株) 代表取締役 勝山勝

(株)ジャパングレーライン 代表取締役 眞下慶一郎

弁護士法人 一番町綜合法律事務所 代表社員 神﨑浩昭

(株)ジョー・コーポレーション 代表取締役 堀切健司

(有)ナリタ美容室 代表取締役 成田弘子

(株)桜井食品 代表取締役社長 桜井勉

番町・九段・四谷

(株)伊勢半本店 代表取締役社長 澤田晴子

三番町 田中康博

池田菓局 池田新二

(資)清水隆商店 代表社員 清水昭治

(株)朝日写真ニュース社 代表取締役 阪田雅子

一般財団法人 不審菴 理事長 千宗左

(株)千修 代表取締役社長 下谷友康

柴田税理士事務所 SHIVAベリーダンススタジオ 柴田哲義 恭代

大手町・丸の内 内幸町・有楽町

東宝(株) 名誉会長 松岡功

有楽町・美宝ビル 青山モリタビル 森田定亮

泉吉(株) 代表取締役 岸本昌子

(株)東京會舘 取締役社長 渡辺訓章

TANAKAホールディングス(株) 代表取締役社長 執行役員 田苗明

(株)帝国ホテル 取締役社長 定保英弥

八重洲・日本橋

東京建物(株) 代表取締役 社長執行役員 野村均 2口

頌春

平成三十戊戌歳

日枝神社

大総代 遠藤恒夫

同 関口弥寿雄

同 笠井清純

同 田中康博

同 池田新二

同 清水昭治

同 岡村好貴

同 松岡功

同 野永喜一郎

同 安西暉之

同 布施徳

同 三枝進

同 小坂敬

同 北見芳夫

同 木村暖子

同 安倍洋子

同 羽田宇男

同 細田眞

同 亀岡恒方

謹賀新年

順不同敬称略

(株)ゆかり 社長 野永喜一郎	(株)髙島屋 常務取締役 亀岡恒方	(株)榮太樓總本舗 代表取締役社長 細田眞	木村實業(株) 代表取締役 木村平右衛門	中西瀝青(株) 代表取締役 森口嘉子	金子架設工業(株) 代表取締役社長 青木茂	川崎定徳(株) 川崎雄厚	日本橋吉野鮨本店 吉野正敏	**八丁堀 茅場町・兜町**	北見不動産(有) 北見芳夫	(資)北見商店 北見まさゑ
(株)プレナス 代表取締役 塩井辰男										

いちよし証券(株) 代表執行役社長 小林稔	エスビー食品(株) 代表取締役社長 小形博行	新日本不動産(株) 代表取締役 中島信子	**京橋**	(株)大澤ローヤル 代表取締役 大澤忠政	中島金属箔粉工業(株) 代表取締役会長 中島武	清水建設(株) 取締役社長 井上和幸	(株)トミタ 会長 富田正一	**銀座 新橋**	(株)ギンザのサヱグサ 取締役 三枝進	(株)小松ストアー 代表取締役 小坂敬
(株)木村商店 代表取締役 木村暖子										

正金商事(株) 代表取締役 蛯原宗久	(株)ホッタ 取締役社長 堀田峰明	(株)小林傳次郎中央地所部 代表取締役社長 小林久子	銀座吉田(株) 代表取締役 吉田民雄	(株)銀座ナイン 代表取締役社長 柴田孝則	(株)新橋玉木屋 代表取締役 田巻章子	(株)銀座木村家 代表取締役 木村美貴子	銀座越後屋 八代目 永井甚右衛門	やす幸 石原壽 松井俊樹	**崇敬者(氏子外)**	安全自動車(株) 代表取締役 中谷宗平
きねや足袋(株) 代表取締役 中澤貴之										

(株)木村屋總本店 代表取締役社長 木村光伯	裏千家 今日庵 千玄室 宗室	(株)桜井グラフィックシステムズ 代表取締役会長 桜井美国	(株)丸井スズキ 代表取締役 鈴木貴博	(株)糟谷 相談役 糟谷孝男	佐藤産業(株) 会長 佐藤太美雄	(株)井筒装束店 代表取締役社長 佐織鉄郎	佐竹昭二	(株)フォーシーズ 代表取締役会長兼CEO 淺野秀則	(株)兵左衛門 代表取締役会長 浦谷兵剛	東京中央青果(株) 代表取締役社長 鈴木敏行
(株)フェム 代表取締役 藤田誠										

頒春

平成三十戊戌歳

日枝神社

宮司 宮西修治
権宮司 大塚正行
禰宜 髙原聖司
禰宜 鎌田周作
権禰宜 土田幸大
同 八巻岳秀
同 片山徹
同 内田博之
同 杉山正吉史
同 手塚和記
同 伊久裕之
同 松橋裕晃

謹賀新年

順不同敬称略

(株)キョウエイアドインターナショナル 代表取締役社長 廣瀬勝巳
(株)アーバネットコーポレーション 代表取締役社長 服部信治
朝日総業(株) 代表取締役 池本なぎさ
日本ビダヤコム(株) 代表取締役社長 東郷英二
鈴木徽章工芸(株) 取締役会長 鈴木健之
(株)ナンシン 代表取締役会長 齋藤信房
(株)髙田装束店 代表取締役 加藤充則
(株)なだ万 代表取締役社長 野原優
(株)ホットアート 代表取締役 望月秀峻
(株)ミロク情報サービス 代表取締役社長 是枝周樹
有楽商事(株) 代表取締役 平沼顕司
廣田特許事務所 廣田雅紀

(株)信英堂 代表取締役 桜井俊一
(株)CMC 代表取締役 髙橋悦郎

山王むらさき会

(株)アルファビデオ
(株)伊勢啓
(株)泉屋東京店
サロン・ド・ベル
(株)三雄
清月堂本店
(株)セレモニー・コンダクターズ
(株)代庄
日本橋髙島屋
(株)東京凧月堂
(有)トーシン
日本旅行公務法人営業部
花省
(株)フェム
フローリスト響花
(株)マイプリント
(株)丸菱
(株)三越伊勢丹
(株)リゲール

酒は、これを神々に献り、その撤下(おさがり)をいただく事によって、うつうつとした気持ちが晴れやかになる百薬の長です。
当日枝神社の御祭神大山咋神は、古来、酒を司らせ給う東都の酒神と厚く信仰せられるところであります。

平成三十年正月献酒醸造元芳名（順不同・敬称略）

新政酒造(株)
富久娘酒造(株)
高井(株)
醉仙酒造(株)
白鶴酒造(株)
東京支社
大信州酒造(株)
秋田銘醸(株)
サッポロビール(株)
七笑酒造(株)
沢の鶴(株)
東京支店
中国醸造(株)
山梨銘醸(株)
盛田(株)
薩摩酒造(株)
谷櫻酒造(有)
大関(株)
首都圏支社
吉乃川(株)
東京支店
賀茂鶴酒造(株)
土井酒造場
太田酒造(株)
本田商店
ヤマサ醤油(株)
黄桜(株)
(株)醉心山根本店
(株)三宅本店
(株)ちくま食品
(株)今田酒造本店
キリンビール(株)
(株)山本本家
醉鯨酒造(株)
濱田酒造(株)
桃川(株)
東京支店
土佐鶴酒造(株)
小西酒造(株)
東京支社
豊島屋酒造(株)
司牡丹酒造(株)
宝酒造(株)
石川酒造(株)
千代の園酒造(株)
雲海酒造(株)
東京支店
福徳長酒類(株)
桝田酒造店
霧島酒造(株)
鍋店(株)
栃倉酒造(株)
日本盛(株)
東京支店
木戸泉酒造(株)
(株)丸山酒造場
ヒガシマル醤油(株)
稲花酒造(株)
朝日酒造(株)
白鷹(株)
東京支店
岩瀬酒造(株)
奥の松酒造(株)
櫻正宗(株)
東京支店
(株)家久長本店
佐浦(株)
キンシ正宗(株)
天鷹酒造(株)
和田酒造(合)
月桂冠(株)
(株)小山本家酒造
六歌仙(株)
菊正宗酒造(株)
武蔵鶴酒造(株)
土田酒造(株)

頌春

平成三十戊戌歳
日枝神社

名誉会長 石原慎太郎
会長 小池百合子
副会長 細田安兵衛
同 中澤彦七
同 福原義春
同 大澤忠政
同 泉邦夫
同 澤田晴子
同 髙木茂
同 松岡功
顧問 石川雅己
同 矢田美英
同 武井雅昭
同 内田茂
同 立石晴康
同 茂木七左衛門
監事 遠藤恒夫
同 南村員哉

平成二十九年　回顧

一月	
元旦	若水祭
	歳旦祭
	國學院大學　坂口吉一理事長参拝
三日	元始祭
六日	第五十三回奉納書初展
十五日	神符焼納祭
二十日	神社本庁統理 総長 副総長　参拝
二十一日	第五十五回神宮初詣旅行　至二十二日
二十四日	新年互礼会
二月	
三日	節分祭
十一日	紀元祭
三月	
十日	第九回責任役員会
	第八回神社総代会（大総代会）
	氏子崇敬会評議委員会
二十日	春季皇霊祭遥拝
四月	
二十五日	末社山王稲荷神社例祭
二十九日	昭和祭
三十日	御神田　田植祭　於　千葉県香取市

ひとり翁奉仕

新年互礼会

節　分　祭

五月	
二十六日	第十回責任役員会
	第九回神社総代会（大総代会）
	責任役員 大総代合同会
六月	
二日	御垣内清掃奉仕
七日～十七日	山王祭
十五日	例祭
三十日	大祓並鎮火祭
七月	
二十日	緑蔭朝詣りとラジオ体操の集い
	開会奉告祭
二十九日	奉賛青年会富士登拝
八月	
四日	第四十回　箸感謝祭
	責任役員会
二十九日	星岡会（旧職員会）
三十一日	緑蔭朝詣りとラジオ体操の集い
	閉会奉告祭

例祭

摂社祭

山王稲荷神社例祭

箸感謝祭

大祓並鎮火祭

九月

十八日　第五十二回敬老祭
二十日　第四十五回山王祖霊祭
二十三日　秋季皇霊祭遥拝

十月

四日　第五十回中秋管絃祭
十七日　神嘗祭遥拝

十一月

三日　明治祭
六日　第一回責任役員会
　　第一回神社総代会（大総代会）
　　責任役員　大総代合同会
十七日　名誉宮司　宮西惟道大人命神社葬
二十三日　新嘗祭

十二月

一日　大麻神札頒布始祭
十一日　責任役員　大総代関係者団体代表等
　　合同納会
二十三日　天長祭
三十一日　大祓並鎮火祭
　　除夜祭

敬　老　祭

新　嘗　祭

中　秋　管　絃　祭

山王祖霊祭

寄稿

小林永濯が描いた幕末の山王祭

―『温古年中行事　第三集』より―

武蔵大学　教授　福原敏男

小林永濯は「鮮斎永濯（えいたく）」とも号し、天保十四～明治二十三年（一八四三～九〇）に生きた浮世絵師、日本画家として知られている。日本橋魚河岸新（肴）場の魚問屋、三浦屋の子として生まれ、新場は山王祭に参加する町であった。そのため、幼少期より山王祭については肌身を通して熟知していたものと思われる。安政二年（一八五五）十三歳の時、中橋狩野家の狩野永悳（えいとく）に就いて狩野派の絵を学び、認められて永濯の号を与えられ、元治元年（一八六四）には日本橋通町に画室を構える。明治三年（一八七〇）頃から浮世絵にも進出するが、このとき永濯は河鍋暁斎と親交があり、暁斎の数少ない画友の一人として、常に画法を論じ合っていたという。明治初年には挿絵をさかんに描き、明治九年（一八七六）、両国中村楼で書画会を開いた際の新聞記事には、「浮世絵では東京一の大先生の会だけに賑やか」だったと記されている。明治前半期には西南戦争の戦争絵、新聞の挿絵など、絵本、狂画、肉筆画を手がけた。明治十年（一八七七）、第一回内国勧業博覧会にて花紋賞を、さらに同十八年（一八八五）鑑画会第一回大会において一等賞を受賞する。明治二十二年（一八八九）に創刊された雑誌『風俗画報』においても健筆をふるった。

永濯の絵は狩野派の正統的な技量の上に、その粉本主義に飽きたらず、明画や西洋画の写実を取り入れ、写真を利用するなど新鮮味を出した。和漢と西洋の技法が一体となった永濯の作品は在日欧米人から評価が高く、現在確認されている以外にも、海外に多数存在すると言われている。明治二十三年向島で没す。享年四十八。墓所は世田谷区松原の正法寺。門人に養子となった小林永興らがおり、明治三十五年（一九〇二）の永濯十三回忌に際し、亀戸天神境内に「鮮斎永濯碑銘」が建てられた。

さて、永濯による『温古年中行事』初集から第三集は、明治十六・二十二・二十八年（一八八三・八九・九五）と、六年毎に版行された。山王祭が描かれた第三集は永濯が生前に制作し、没後に版行された遺稿であろう。三冊とも発行者（版元）は浅草の松崎半造、ともに半紙本二二・八×一五・二㎝の木版、墨摺の縦冊和装本であり、第三集には大槻如電による序文が載り、同書を幕末の景観年代と記している。

この第三集は旧暦四月から六月までの夏季年中行事の絵本であるが、三冊とも江戸懐旧の念で購入されたのであろう。第三集は第二丁から九丁裏まで以下の描写が続く。田草取り、端午節供の菖蒲打ち、家の外（庭）の鯉幟飾りと屋内の内幟、梵天、蚊帳売り、両国川開き（花火）、浅間詣での麦藁細工の蛇や団扇売り、江戸祇園会（天王祭）の神輿、同祭の榊や獅子、同祭の中橋鞘町による四方大行灯（北斎の行灯絵）、水馬と水練、金魚売りである。多くは永濯が見聞した江戸市中の風俗である。

その後、**写真1**（十丁表）から山王祭が始まり、第三集後半は山王祭が占めている。**写真1上**は「山王祭　年番町ニ花車人形をかさり付たる図」とあり、能から採った竹生島龍神山車人形が大きく誇張して描かれている。この山車は山王祭第二十一番田所町・通油町・新大坂町組合が出すもので、この三ヶ町いずれかの年番町に飾られたのであろう。団扇売りも商売の手をやすめて見物している。**写真1下**は「おなしく年番町の児童祭礼前近親を廻るの図」とあり、大店の子が役者などに扮しての花籠（駕籠）・花鑓行列をする前に、子供のお披露目・挨拶のため親戚廻りをしたらしい。**写真2**（十丁裏～十一丁表）には「六月十五日　山王祭行列の図」とあり、山王権現の大榊渡御を見ている桟敷席二階には屏風が飾られている。続いて、「唐人幟」

写真1

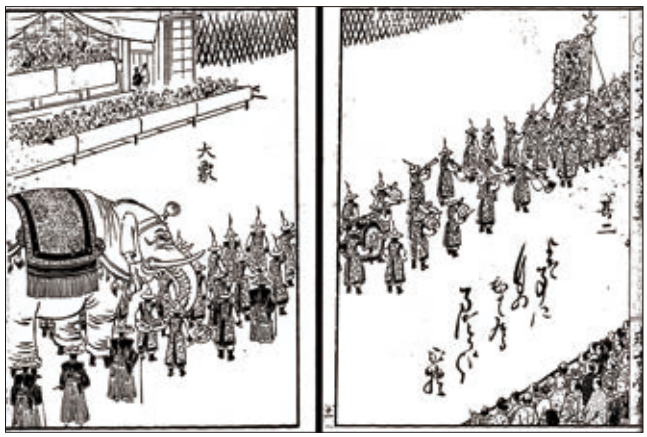


写真3

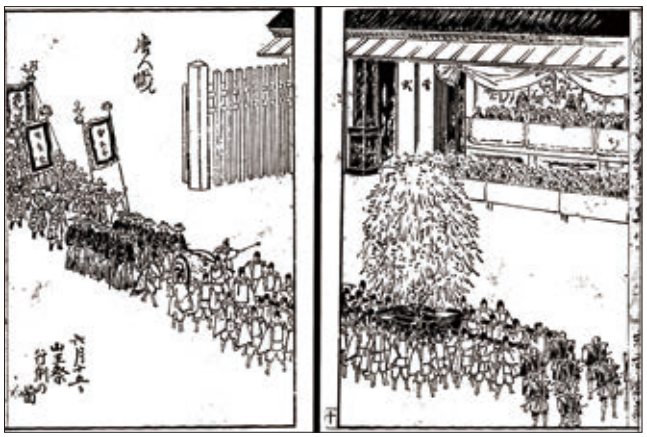


写真2

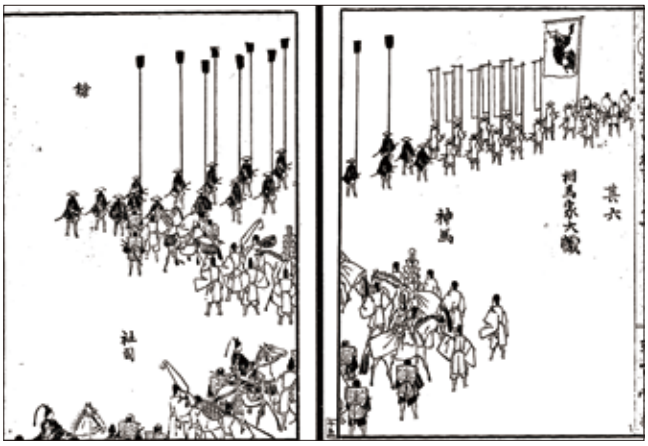


写真5

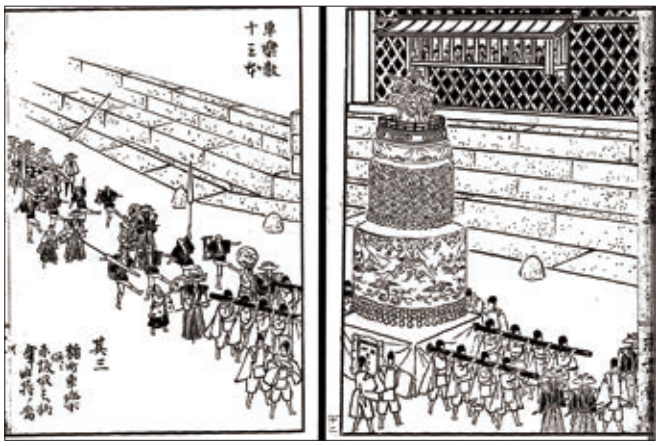


写真4

とある異国風の行列が町木戸内に練り、幟の頂飾りには珊瑚も見え、これは後続の大白象附祭の先導であろう。本来、町方の第一・二番の山車は大伝馬・南伝馬町であるが、永濯はこれを略して、**写真3**（十一丁裏～十二丁表）第三番の麹町の出し物を描いている。先ず、麹町の附祭として著名な大白象造り物の一行である。チャルメラなどの唐人囃子がエキゾチシズムを醸しだし、象の足下に人の二本足が見えており、四人が四本足に入っている。上方の竹矢来は祭時の往来留めを表していよう。**写真4**（十二丁裏～十三丁表）は「麹町車楽」「車楽数十三本」とある麹町の二階（層）傘鉾高欄人形であるが、十三本とあるように、中央に長柄（一本柱）が上下に貫通している構造である。永濯自身には傘鉾という認識がなく、恐らく「車楽」を当時は現山車（だし）の一般呼称であった「だんじり」（一八九〇年刊『言海』）と読ませたのであろう。麹町傘鉾の鶴の飛来を織りなした下幕は見事であり、上の高欄には女猿人形が飾られている。向かいの格子塀の窓からは多くの女性が見物しており、沿道の清めの盛り砂（土）の描写も正確である。その後ろは「赤坂奴長柄傘曲持ノ図」とあり、奴による傘のアクロバティックな道行芸が見事である。十三丁裏～十四丁表は「花車数四十八本」と記され、うち二本が描かれている。幕末以降山王祭にも登場した二層高欄人形山車（所謂江戸型山車）であり、前の山車は前掲の竹生島龍神人形山車である。十四丁裏～十五丁表には城内を進む「獅子頭・鎗・鉾」が描かれるが、**写真5**（十五丁裏～十六丁表）は「相馬家大幟・神馬」、疾駆する馬が描かれた相馬家大幟であり、十六丁表には「鎗・社司」。**写真6**（十六丁裏～十七丁表）には半蔵御門前を行く三基の神輿、門の横にての行列検閲の様子が描かれるのは珍しい。**写真7**（十七丁裏～十八丁表）は法師武者を「鎌倉武者」と記し、十八丁裏～十九丁表には輿で渡る「別当・神主」が描かれる。本書山王祭最後の十九丁裏・二十丁表には「踊家台併ニ地踊」として、「鉄棒・テコマイ・踊子・浄る理（浄瑠璃）太夫・底ぬけ家台」と記されている。**写真8**（十九丁裏～二十丁表）の底抜け屋台の正面上の額は、上部に描

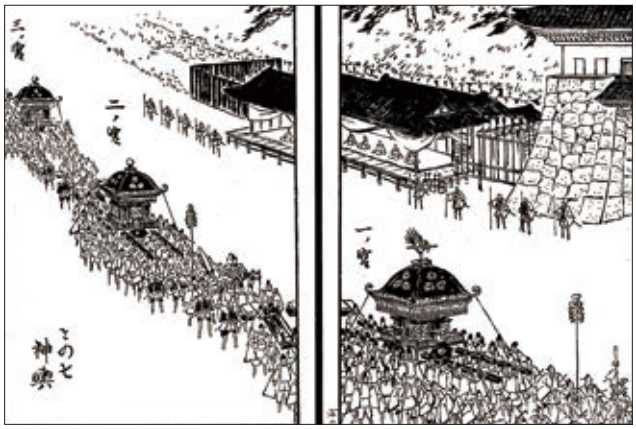


写真6

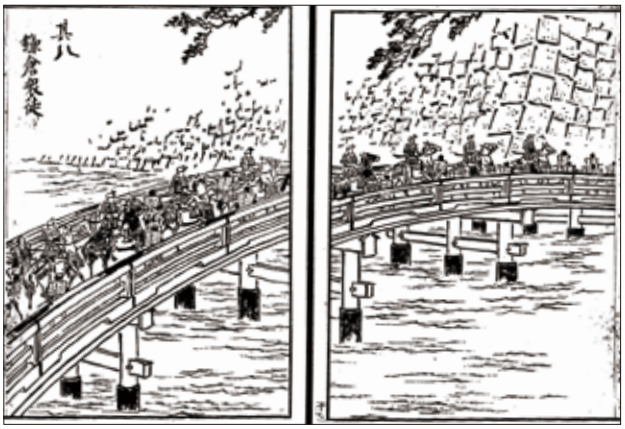


写真7

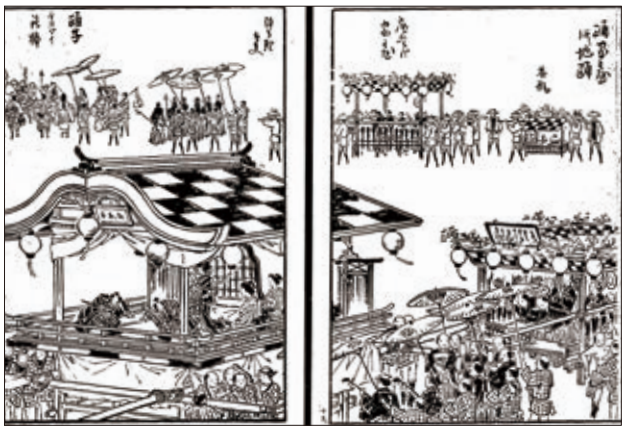


写真8

かれた、進行している横向きの底抜け屋台にも見えるが、これは演題ではなく、奏者の芸名を記した額と思われる。「茶瓶」とは茶小屋または荷い茶屋をさす。

二十丁裏は「大祓式」とあり、これは六月晦日の川の畔における「夏越の祓」を描いたものであろう。裏表紙には近刊予告として「温古年中行事　追々近刻」とあり、第三集四～六月の夏の行事以降、秋・冬の巻が続刊される予定であったが、永濯の死去により未刊であったものと思われる。

永濯は維新まで、四半世紀も江戸で生きた人物であり、江戸がハード・ソフト両面から大変貌を蒙るときに、まさに江戸の生き証人として、自身の記憶と他の資料をたよりに、在りし日（幕末）の山王祭を活写したものであろう。

（掲載写真、国立国会図書館所蔵）

参考文献：藤懸静也『増訂浮世絵』雄山閣、一九四六年（国立国会図書館近代デジタルライブラリー）・日本浮世絵協会編『原色浮世絵大百科事典　第二巻』大修館書店、一九八二年・日本美術院百年史編集室編『日本美術院百年史　第一巻　上』日本美術院、一九八九年・松浦あき子「小林永濯の人と作品」『MUSEUM　東京国立博物館美術誌』五三四、一九九五年・悳俊彦『Bien（美庵）』三四（藝術出版社、二〇〇五年）「忘れられた明治の画家を再評価せよ!!」（柴田是真・小林永濯・渡辺省亭・尾形月耕・山本昇雲）・小林忠監修『浮世絵師列伝』平凡社＜別冊太陽＞、二〇〇六年・国際浮世絵学会編『浮世絵大事典』東京堂出版、二〇〇八年

宮西惟道 名誉宮司 帰幽

宮西惟道名誉宮司は十月一日（日）に帰幽しました。（行年八十三）

十一月十七日（金）午後一時より青山葬儀所にて日枝神社葬を執行。当日は、畏くも天皇陛下より祭粢料を賜り、また神社本庁から幣帛と祭粢料が奉献され、斎場には多くの生花が供えられました。

葬儀は、神社本庁長老 代々木八幡宮宮司平岩昌利殿が斎主を務め、日枝神社責任役員細田安兵衛殿、神社本庁統理北白川道久殿（代理 総長田中恆清殿）、東京都神社庁長小野貴嗣殿、士別神社名誉宮司佐藤公聰殿が弔辞を奏されました。

また、氏子崇敬会長小池百合子殿、内閣総理大臣安倍晋三殿をはじめ各界より多数の弔電が届けられました。

責任役員以下大総代氏子崇敬会役員をはじめ神社関係者等約千名が参列し、厳粛に執り行われました。

ここに略儀ながら紙上にて故人への生前の御厚情に対し厚く御礼申し上げます。

麹町消防少年団 麹町消防少年団来社

11月12日（日）麹町消防少年団の皆さんが火災予防運動の広報活動を行いました。

抜穂祭執行

9月2日（土）、千葉県香取市の御神田に於いて抜穂祭を執行しました。

当日はあいにくの雨天ではありましたが、氏子崇敬者多数の参加の下、稲刈り奉仕を行い、収穫された新穀は11月23日の新嘗祭で神前にお供えされました。

ピーポくん出動

10月９日（月）平成29年全国地域安全運動の一環として、警視庁麹町警察署署員の方々が広報活動されました。

今回も警視庁マスコットのピーポくんが境内にて七五三のお子さんを始め参詣者と共ににこやかに写真撮影等を行いました。

「日枝神社広報大使」に是永　瞳さん

十月十八日（水）、女優の是永瞳さんが日枝神社広報大使任命式に出席され、今年度の広報大使に就任されました。

当日は多くの報道陣が取材に訪れ、是永さんは取材陣に対し広報活動への意気込みを語られました。

なお、年末に東京メトロ全線の車内ビジョンにて配信されるＣＭに出演される他、二月三日（土）に執り行われる「節分祭」にも特別年役として参列をされる予定です。

日枝神社家庭暦上梓

「平成三十戊戌（つちのえいぬ）年日枝神社家庭暦」。現在、二百円にて頒布中です。

山王台通信

神社本庁辞令

長老の敬称を贈る

名誉宮司　宮西　惟道

平成二十九年九月三十日

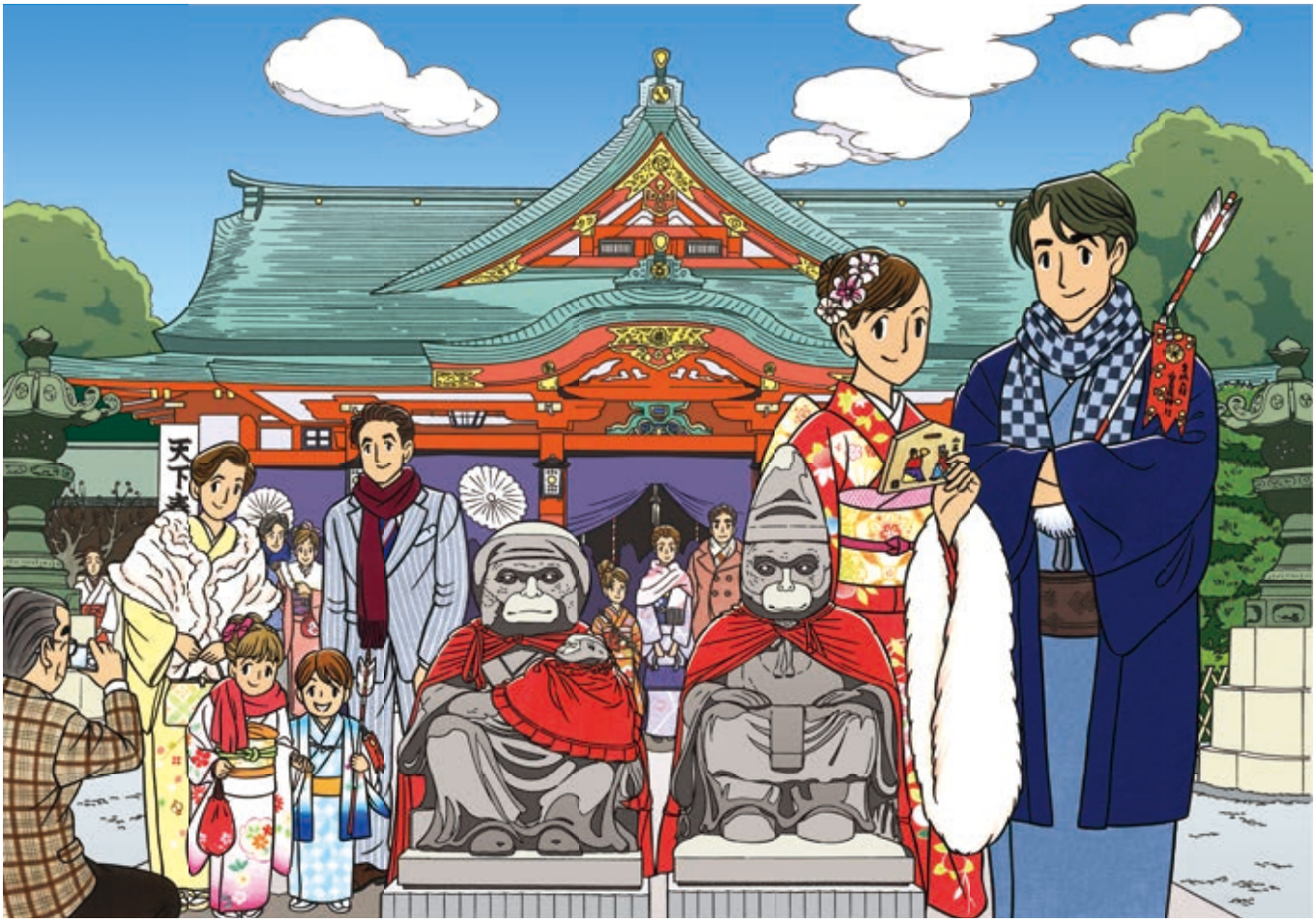
神社本庁

新入職員紹介

【嘱　託】千葉　進（平成二十九年七月十五日付）

【嘱　託】富田　清治（平成二十九年十一月一日付）

〈通巻 百三十一号〉
発行　平成三十年一月一日
編集　日枝神社社務所
東京都千代田区永田町二丁目十番五号
（郵便番号　一〇〇-〇〇一四）
TEL　〇三-三五八一-二四七一（代表）
FAX　〇三-三五八一-二〇七七
http://www.hiejinja.net/



©わたせせいぞう

平成 30 年厄年表（数え年）

男の厄年

前　厄	本　厄	後　厄
平成7年生 **24歳** ゐ(いのしし)	平成6年生 **25歳** いぬ	平成5年生 **26歳** とり
昭和53年生 **41歳** うま	昭和52年生 **42歳** み(へび)	昭和51年生 **43歳** たつ
昭和34年生 **60歳** ゐ(いのしし)	昭和33年生 **61歳** いぬ	昭和32年生 **62歳** とり

女の厄年

前　厄	本　厄	後　厄
平成13年生 **18歳** み(へび)	平成12年生 **19歳** たつ	平成11年生 **20歳** う(うさぎ)
昭和62年生 **32歳** う(うさぎ)	昭和61年生 **33歳** とら	昭和60年生 **34歳** うし
昭和58年生 **36歳** ゐ(いのしし)	昭和57年生 **37歳** いぬ	昭和56年生 **38歳** とり

東京都千代田区永田町２丁目10番５号
TEL. 03-3502-2205
FAX. 03-3502-8948
http://www.hieakasaka.net/

日枝神社
結婚式場
日枝（ひえ）あかさか